

Age-Period-Cohort 解析による、 スポーツ強度を加味した身体活動充足率の経年推移の検討

厚生労働省から示されている「健康づくりのための身体活動基準」では、個人の健康づくりのための身体活動基準として、18～64 歳の身体活動に関して以下の運動量が定められている。

身体活動（生活活動+運動）...強度が 3METs 以上の身体活動を 23METs・時/週行う
運動 ...強度が 3METs 以上の運動を 4METs・時/週行う

この基準の充足状況について、笹川スポーツ財団によって行われてきたスポーツ活動に関する全国調査のデータを用いて検討を行う。検討に際しては、年齢・時代・出生コホートによる効果が調査結果に影響を及ぼしていることを考慮して APC 解析を適用する。

本抄読会では、笹川スポーツ財団の調査の回答として挙げられた種目について、運動強度の当てはめの方法及びその妥当性、そして今後の見通しについて取り上げる。

参考文献

- [1]大野ゆう子・清水佐知子・三輪のり子(2006) “保健医療データと統計数理：APC モデルについて”, CICSJ Bulletin, Vol.24 No.4 127-131
- [2]Chris Robertson & Peter Boyle(1998) “AGE-PERIOD-COHORT ANALYSIS OF CHRONIC DISEASE RATES. I : MODELLING APPROACH, STATICS IN MEDICINE” , Statist. Med. 17, 1305-1323
- [2]山本達三・中村隆(2015) “スポーツライフに関する調査平成 4~26 年(笹川スポーツ財団):成人の運動・スポーツ実施レベルへの年齢・時代・世代の影響” ,体育の科学,Vol.65 No.8 577-585
- [4]笹川スポーツ財団(1992~2016) “スポーツライフ・データ”
- [5] World Health Organization (2010) “Global Recommendations on Physical Activity for Health” (http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/44399/1/9789241599979_eng.pdf)
- [6]厚生労働省(2013) “健康づくりのための身体活動基準 2 0 1 3” (<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002xple-att/2r9852000002xpqt.pdf>)
- [7] Ainsworth BE, Haskell WL, Herrmann SD, Meckes N, Bassett DR Jr, Tudor-Locke C, Greer JL, Vezina J, Whitt-Glover MC, Leon AS(2011) “Compendium of Physical Activities: A Second Update of Codes and MET Values”, Med Sci Sports Exerc. 2011, 43(8):1575-1581
- [8] 中江悟司・田中茂穂・宮地元彦(2012) “身体活動のメッツ(METs)表” ,(独)国立健康・栄養研究所, (<http://www.nibiohn.go.jp/eiken/programs/2011mets.pdf>)